

「最新名古屋地盤図」および「名古屋地域地質断面図集」

Geotechnical Data of Subsoils in Nagoya (New Edition, 1988)

松 澤 宏 (まつざわ ひろし)

名古屋大学助教授 工学部地盤工学教室

(元 土質工学会中部支部名古屋地盤図委員会幹事長)

土質工学会中部支部は、日本建築学会東海支部および名古屋地盤調査研究会との共著により「名古屋地盤図」(コロナ社)を昭和44年に出版した。この地盤図は、名古屋地盤の基礎資料として重要な役割を果たしてきた。この出版以降、市域の開発・都市化とともに、ボーリング調査資料数が膨大な量に達し、これらを収集・整理した新しい地盤図出版の要望が強まり、当支部では、昭和63年1月に「最新名古屋地盤図」を、またこれに先立つ昭和62年12月に「名古屋市域地質断面図集」を出版した。

「最新名古屋地盤図」は2編に分かれており、第1編では名古屋地盤に関する解説が、また第2編には4190本のボーリング柱状図およびN値、7100試験に対する室内土質試験、1112地点における孔内水平載荷試験および506地点の現場透水試験のデータが掲載されている。

これらのデータは、メッシュデータとして整理されており、いわゆる国土標準メッシュの10km×10kmメッシュを東西、南北それぞれ10等分し、さらに16等分した東西約280m×南北約230mのメッシュを中区画とし、これを4等分したものを最小メッシュとしている。中区画には、最大5本の柱状図が

収録されている(5本目は、PS検層が行われているもの)。すべてのデータをデータベース化し、電子計算機により出力した図表を印刷原版に用いることにより、掲載資料の誤植の防止に努めた。

「名古屋市域地質断面図集」は、市域の東西、南北を約2kmごとの格子状に区切った東西11断面および南北9断面の図集およびその解説であり、地盤構造の三次元的な概要を理解しやすい形となっている。各断面図は、上述のデータベースを利用して断面線の両側500m以内のボーリング柱状図を検索・出力したものをを用いて作成された。

上述のデータベースについては、当支部名古屋地盤データバンク研究委員会が、土質工学会員による研究および公共・公益機関による公共・公益事業の目的に限り公開する方向で検討を進めている。

「最新名古屋地盤図」は若干の残部があり、名古屋地盤図出版会(〒461 名古屋市東区葵三丁目25番20号 ニューコーポ千種橋 403 中部地質調査業協会内。電話 052-937-4606。1冊55,000円)で頒布している。